大学教育実践ジャーナル 第6号 2008年3月 抜刷

口頭技能強化に向けた未習外国語教育における部分的な Outsourcing の可能性

── Blackboard™（BB）の試行から ──

ルドルフ　ライネルト

口頭技能強化に向けた未習外国語教育における部分的な Outsourcing の可能性

── Blackboard™（BB）の試行から ──

ルドルフ　ライネルト
（愛媛大学　教育・学生支援機構）

Enhancing speaking in 2nd FL teaching by partial outsourcing

── A pilot study with Blackboard™ ──

Rudolf Reinelt
（Ehime University, Institute for Education and Student Support）

概　　要

外国語の学習においては，受講生ができるだけ多く目的外国語と接触することが大切である。それゆえ授業を担当する教員は，受講生がどの程度目的外国語と接触しているかを正確に把握しておく必要がある。この目的のために，2006/7年度，当教員（ドイツ語担当）は愛媛大学で初めて，当大学に既存の Blackboard（BB）と Active Mail（AcM）をつなぐ授業を実験的に試みた。ほぼ毎回の授業において試行した結果，BB が補充的な他のメディアと連係して使用することにより，外国語授業の程よい Outsourcing（外部委託）に使用可能との帰結を得たので，以下に報告する。

BB については本試行ではもっぱら，そのシステムのうちデータ統計を提供する機能のみを使用したことから，以下の報告はその範囲に限定して行うものとする。報告の内容としては，始めに BB 導入について述べ，次に既存の設備について言い，第 3 にこの授業での使用方法を紹介し，第 4 に愛媛大学のこの使用条件および実行について報告し，第 5 に簡単な分析を紹介してから，第 6 に結果からの展望を試みる。

尚，今回の実験の教育的な意義については，特に外国語教育の場合には非常に限定されてしまう。そのため，ここではプロジェクトのために計画したものを紹介するのではなく，通常の授業で得たデータなど（Reinelt 2006a）を紹介することにする。

1．はじめに

外国語授業，特に未習外国語の場合，読訳の他に書く，聞き取る，更に話すという能力を学べるようにしようとするなら，目的外国語との接触機会を出来るだけ多くする必要がある。そのためには教科書以外のメディアの活用が有効であるが，適切な教材・資料を集める作業が最近まで非常に困難であった。しかし近年，Web などの広がりによってこの作業が比較的簡単にできるようになった。当教員はインターネットが提供しているあらゆる情報等を使用するために様々な工夫を凝らしてきた。そのことにより以前に比べると，多くの学習時間を授業中の学生同士の会話練習にあてることができるようになった。その際，当教員は受講生が学外における日常生活においてインターネットや E メールをよく使っていることに着眼し，愛媛大学に既存する BB と受講生が入学時に配付されている Active Mail のメールアドレスとを併用することにより，目的外国

語との接触を大幅に増やせるのではないかと考えた。ちなみにBBには利用者の使用追跡機能が備わっている。

以下の報告においては本試行を通じてBBにより提供されたデータ，統計だけを簡単に紹介する。その背景・理論・研究などの更に詳しい案内はReinelt 2006a，bなどを参照にされたい。

２．LMS, Blackboard, AcMの併用について

インターネットなどを使用するCALL（Computer Assisted Language Learning）及びLMS（Learning Management Systems）についてはライネルト研究室が発行しているCAJ（Communication Association of Japan）中国四国ChugokuShikoku Newsletter 5号に既にMeshon（2001）の比較批評がある。更にそれらは近年において，技術など大幅に発達してきた。現在はBlackboard，Web-CT以外にもMoo，Moodle，Tiki，など様々なものがある。しかし，それらを購入するための費用や使いこなすまでの時間を考えると，LMSを中心的に使用しない教員にとっては負担が大き過ぎるようである。最新の機械・ソフトなどを高望みするのではなく，現在の教育現場に既存の条件を用いた授業を工夫する必要がある。（Reinelt 2006a）。愛媛大学は現在，Blackboard Version. 7を持ち，受講生は入学時に固有のActiveMailのe-mail番号をもらう。学生は携帯によるインターネットやE-mailを日常的に使用するため，基本的にはそれらのメディア使用に関するリテラシーを持っている。それらを外国語の授業で使用するなら，目的外国語の学習と同時に，目的外国語に係るメディア・リテラシーも取得できることになる。

３．BB　使　用

BBをどのように使用したかは（Manual（制作中）を参照）ここで細かく説明することができない（口頭のための試行の詳細はReinelt 2007を見よ）が，主な方法は次のようであった。

本来ならば，Blackboardは教員が学生を登録するようになっている。しかし共通教育が「自ら考え行動する学生の育成」という理念を掲げているため，BBについても学生が自主的に登録するシステムを採用することとした。その場合の留意点は以下の通りである。

① BBは沢山の用途別に分けた機能を提供しているが，その豊富な機能は利用者の迷走の源になりやすい。授業の場合，それは更なる不安の原因になりかねないため，主に「文書」という機能に限って使用した。
② 授業後に文書フォルダの一番上に授業内容を記録した。しかし，口頭授業に大切な，練習後の必要な時間的な隔たり（以下４を見よ）を，残念ながら捻出することができなかったため，効果が最大限までは伸びていないと思われる。
③ 宿題を与えるために，また追加的に目的外国語と接触をさせるため，学生が工夫し自主的に解ける課題に取り組む。
④ 目的外国語と関連する文化との接触を増やす目的で作られたリンクの使用方法を教えてから，受講生はそれを使用して文化についての課題に取り組む。
⑤ 受講生の（特に口頭試験の経験がない学生の）試験に関する不安感を和らげるためのテスト・ヒントなど
⑥ 緊急連絡

全体としてはこの試行はハーバード大学におけるフランス語教育に近い（Marshall 2007）方法だった。BBとActive mailの具体的な使い方についてはMeloni n. d. を参照されたい。またライネルトの授業に使ったものは当教員にまで，または只今作業中のマニュアルを参照されたい。先端的メディア使用におけるedutainment（教育とエンターテイメントの境目）についてはPurushotma（2006）を参照されたい。

４．愛媛大学の外国語授業におけるBB使用

４．１　使用前の条件

愛媛大学の外国語の授業において上記のような比較的新しいメディアを使用しようとする場合，使用を始めてすぐに受講生から高い評価を期待すること

ができないだろう。Hawthorne effect（新しいものは最初は大歓迎されるが，使用に慣れてくると効率は普通のレベルに戻る）を受ける学生でさえ，わずかにいるものの，教員がどんなに準備をしても，一般的には次のような（acceptance/rejection）段階的な発展が見られるであろう。(Kantowitz 1997も参照)。

・利用なし

最適な利用への過程
・一切無視（受け付けない，置いてくれたものを見ずに放って置く，捨てる）
・完全なる迷走
・拒否，見よう，理解をしようとしない
・一応は見るが（しようとする前に）批評，批難する
・部分的に使用する(手を出す，触る，試しに遊ぶ)
・適切に，正しく使用する
・更に使用をもとめる（使用を増やしてほしい）
・使用について一般的な改善提案をする
・細かい改善提案をする
・(学生が）新しいソフトを開発する

国際的な授業に慣れていない愛媛大学の学生にとっては上記のような追加的なメディア使用は，直接的なモチベーションとのつながりが期待できないだろう。

そのため，結果としては学期末学生評価では，よい結果は見られなかったようである。しかし，受講生による教員評価においては，この pilot study 試行についての自由解答欄のコメント，当教員が行った別なアンケートから，楽しかった，或いはよかったという意見も見られた（より詳しく知りたい場合は結果は当教員に問い合わせされたい)。

4.2　受講生による使用状況

それでは，結果として学生は BB を使用したのだろうか？　ここでは BB が提供しているデータを参考にする。細かい分析は専門家に任せるしかないが，一見してわかるものについての簡単なコメントは付けてみたい。当然のことではあるが，BB がデータを提供していない部分についてはコメントができない。

例えば言語学習の場合，ある学生がアクセスしたかどうかよりも寧ろ何分間ファイルを眺めたかの方が重要である。また，フォルダの中のどのファイルを使用したかは分析の中で分けて表示していないので正しいファイルを見たかどうかはわからない（新しいバージョンでは見ることができるようになった)。

ここで BB が提供する授業ファイルを観ることにしよう。

各クラスのデータ全体は次のような形で提供される：

金曜日３限（法文学部・教育学部の学生を対象とした講義）のデータを例にする。

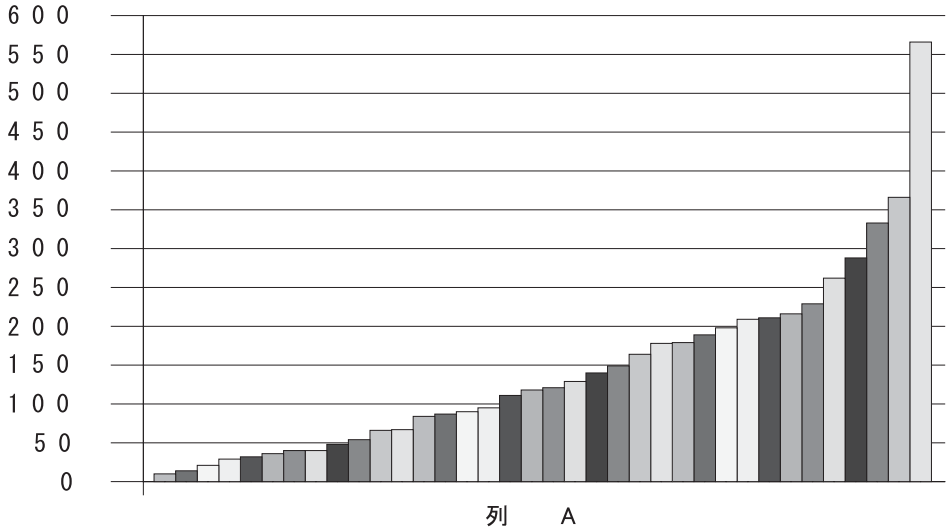

図１

・指定期間中のアクセス数（詳細）のデータは不完全である（１月25日まで）。実際には授業は２月16日までに行われた。変遷はBBで見るしか方法がない（ここでは表示できない）。

各グラフの棒は，一人の学生を代表しAdministratorである一番右の端を除いて，ほとんどBBを見ていない学生から330回見た学生まで緩やかに上昇する。よく見る人とあまり見ない人との両側の集中は見られない。つまり，アクセスの回数を見ると，10～566回まで広いばらつきがあることが分かる。

５．簡単な分析の代わりに

BBが提供しているデータ及びその意味を少し見てみる。

１AREAの合計＋グラフ

次に使用機能の迷走を回避するために使用したArea B以外の部分，Area AまたはC，Dも調べられていることがわかる。Eは合計となる。：図２を見よ。

授業統計にはBBが分野別に計算してくれるものもあるが，今回はコース文書だけを常に使用してい

Reinelt Rudolf (St)	0	10	0	0	10
1	0	14	0	0	14
Administrator Blackboard5	3	18	0	0	21
2	5	24	0	0	29
3	0	32	0	0	32
4	0	36	0	0	36
5	0	40	0	0	40
6	2	38	0	0	40
7	5	42	1	0	48
8	0	54	0	0	54
9	0	66	0	0	66
10	9	56	1	1	67
11	4	80	0	0	84
12	1	86	0	0	87
13	0	90	0	0	90
14	1	94	0	0	95
15	5	103	0	3	111
16	0	118	0	0	118
17	1	120	0	0	121
18	6	123	0	0	129
19	4	134	0	2	140
20	1	148	0	0	149
21	24	138	1	1	164
22	11	167	0	0	178
23	21	150	2	6	179
24	14	172	1	2	189
25	0	198	0	0	198
26	9	196	1	3	209
27	12	184	3	12	211
28	2	211	0	3	216
29	0	225	0	4	229
30	9	239	0	14	262
31	9	277	0	2	288
32	19	304	0	10	333
33	61	296	0	9	366
34	20	546	0	0	566
	COMMUNICATION	CONTENT	GROUPS	STUDENTS	合計
合計	258	4829	10	72	5169

図２

たため，ここではコース文書以外のものは対象外とする。

1 AREA 別に分けているがこの授業は BB の使用中の迷走，効率よく使うために文書ファイルしか使用してこなかったため，他のエリアの値は非常に小さいはずである。しかし，その他の分野も一定の数値を示しているため，受講生はその部分もチェックしていたと推測しても良い。

一次的に使用機能の迷走を回避するために使った Area B 以外の Area A または C，D も調べられている。E は合計となる。：

上記の終わりに全てのアクセスが出た。どの学生が，いつ，よくアクセスしているか把握することが出来る。excel を使用して percentile ではなく順序をつけアクセスすると，殆どアクセスしない受講生の割合が分かる。

時間の所ではあまり面白くないがアクセスの開始／終了時間を計ってもらえば外国語の授業に有利に使うことができる。なぜならばスピード（速度）は外国語習得に成功するための非常に大事な要因である。

利用した時間の曜日にはその授業に大事なデータが秘められている可能性がある。外国語学習は長く一つの構造を何時間も練習するのではなく，練習した後，間をおいて半分または大半を忘れた頃にさらに練習するのが非常に効果的である（Balmus oral）。BB を使用すると授業日と授業日の間に外国語との多様な接触を可能にすることが出来る。それは例えば授業録を見て授業の流れをもう一度覚えるから，その前の授業を基にした更に進んだ課題を解くようにするからである。そこで BB を見るのは授業日ではなく授業日と授業日の間が重要である。例えば401の授業日は月曜日と水曜日であったので，外国語接触を最大限に効果的にするのであれば火曜日と金曜日及び日曜日に BB を見て解く課題，練習を挙げるのが理想であろう（Spacing effect（n. d.））。逆に言えば BB に授業内容などを即時に書く，又は資料を提供すると教科書と変わらずに本又はメディアを閉じたら残る物の無いような状態で終わるのである。さて，今回の授業はどうであったか。残念ながら教員も授業録を書くのがあわてて早すぎたこともよくあった。

授業日	BB を見る予定日
月；水	火；金または日
火；金	木；月
水；金	木；火
金；月	水または日

更に金曜日の統計を見ると，アクセスは次の通りである。その曜日が終わるまでのアクセス数の割合は図 3 に示されている。

日曜日	337	6.51
月曜日	780	15.08
火曜日	813	15.72
水曜日	663	12.82
木曜日	974	18.84
金曜日	1,449	28.03
土曜日	153	2.95

図 3

この金曜日のクラスでは推測通り，金曜日にアクセスが非常に多かったことが分かる。上記に従えば，これは失敗のように見える（図 4）。

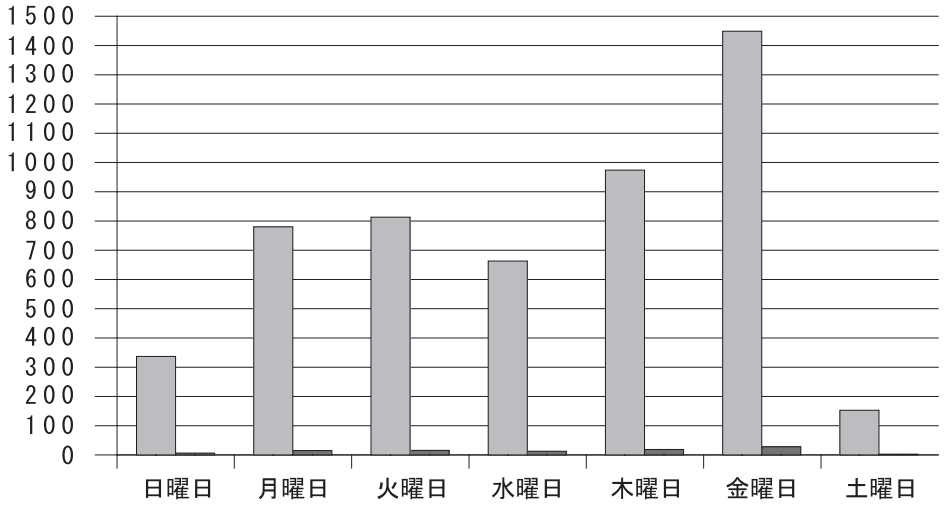

図 4

特に２回目の授業は，火曜日に行われていると同時に火曜もよくアクセスされているからである。

しかし，よく見ると木曜日のアクセス・レートは２位であり，水曜日と火曜日とそれの差も僅かである。月曜日だけは，授業のない日なのでアクセスがあった方が良い日である。

このデータを見て分かるのは受講生が少なくとも半週間の連続的な外国語（ドイツ語）接触が保障されていたということである。

このデータが得られたクラスにおいては，独検を受けた受講生の３分の２が合格した。また，口頭試験では評価に必要であった３分の枠を越えた人が殆どであった。しかし，BB の使用が直接的に影響を及ぼしたとは言えない。

残念ながら BB のデータには二つの弱点がある：

① BB の中に作られている「追跡」という機能を各々のファイルに付けても，ここで提供されたデータには，どの学生がどのファイルにアクセスしたかは教えてはくれないので，この部分がより詳しくわかるようになれば，教育面においてより有意義になると思う。

② BB が提供しているデータは全て一次元的である。もしも二次元的であれば，

・例えば，どの学生がどのファイルに何時から何時までアクセスしたか

・この電子教材の使用の可能性（可使用性）が飛躍的に増え，教育改善の元となる分析のための情報として大きく貢献するだろう。

前後期の期間中において（図５）

長期の経過を分析するのは有用である。冬(後期)のアクセス回数が減ったことが目立つ。夏季には不慣れのために確認回数が多かったのかもしれない。後期は全体としては教員が毎回授業録を書いて，それに関連する課題を挙げても，見る受講生や見る回数が少ないことも目立つ。

しかし，BB が提供しているデータは不完全であるため（特に学期末のテスト時期のアクセス回数は含まれていない場合がある）一部の経過しか見えない。

Control Group

当教員の授業を受けている受講生同士や先輩からの授業情報の流れがよいため，不平等にならないよう，各クラスにおいて同様の方法で進むことが必要だった。そのため，研究における基準を保つために不可欠な Control Group は今回存在していない。

６．様々な結果：果たして，効果はあったのか

結果はそう簡単には測定できなかった。なぜなら，比較になるようなクラスが無かったからである。例えば，半分だけに BB を使わせ，その他の学生には BB を使用させずに勉強をさせたら，非常に

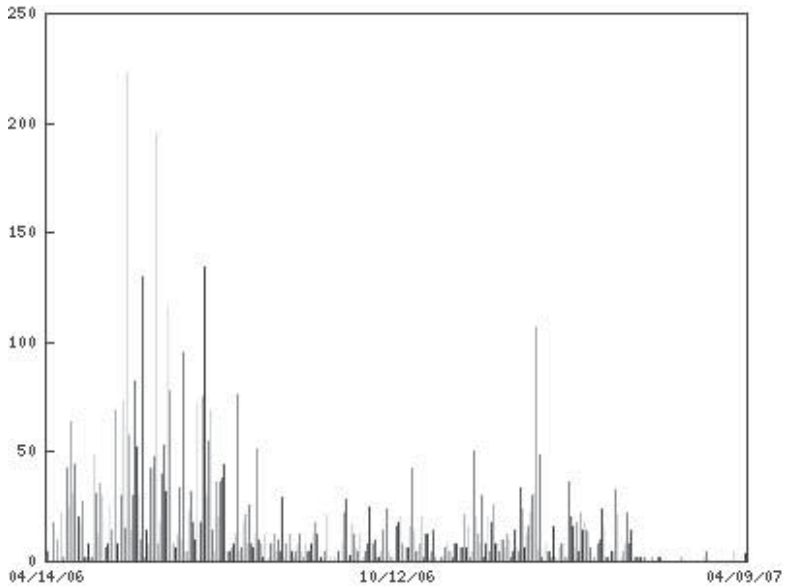

図５

不平等となる。更にもう一つの理由は，BB を単独に使っただけではなく，AcM との両方を使用したからである。それにより，どちらが BB でどちらが AcM の効果であるとは決めにくい。受講生の多くは，３分間ドイツ語でしゃべることができるようになったため，学生のほとんどは優という評価になった。これでは個人的な効果があったかどうかは図りにくい。しかし，全体的な結果であれば，話の長さでよく分かるのである。

ここでは二つの部分的ではあるが，印象ぐらいのデータは言及することができる：

１．愛媛大学が学期末に行っているアンケート
２．当教員が独自開発したこの試行にあわせたアンケート

いずれも集中的に BB を取り扱っているものではないが，その使用及び全体についての受講生の意見などは十分反映していると思う。

それを踏まえた上で主観的な意見だけではなく，客観的なデータにもこの試行の成果が出ている。

６．１　愛媛大学学期末アンケート

愛媛大学が学期末に行っている授業改善のためのアンケートデータを比較できるだろう。全クラスと平均との比較も含めて次の通りである：図６を見よ。

しかし下記に示されたような部分的な良い結果は，愛媛大学が学期末に行っている改善のためのアンケートには反映されていないように見える。基礎科目の平均を上回った数字は，まれにしか見えないし，下回っているものが多い。演習と語学向上は平均を上回ることがあるものの，BB で豊富に提供した視聴覚教材は評価の面では平均を大きく下回っている。こちらのデータは授業全体に掛かるので，AcM 及び BB の部分的なメディア使用についての有効性に限りがある。

６．２　RR 研究室独自のアンケート

ここで RR 教室が行ったアンケートのこれに付いての部分的に言及する。このアンケートは，機械的な解答を避ける（例：解答を全て A にする，など）ため，解答の欄の同じ内容の答えをバラバラに配置して行った。

アンケート

RR（2006/7年度各クラスの最終回実行，インターネット使用・BB に関する部分だけを引用）

平成18年度後学期授業改善のための最終アンケート集計表

	月曜 2限	火曜 3限	水曜2限	金曜 3限	初めての外国語文系基礎科目平均値	水曜 6限	夜間主・文系基礎科目平均値	初めての外国語
1) 1-1 目的・目標の理解	2.8	2.3	3.1	3.2	3.2	3.1	3.2	
2) 1-2 進度・時間配分	2.8	2.6	2.8	3.2	3.1	2.8	3.2	
3) 1-3 シラバスどおりの授業	2.8	2.3	3.0	3.3	3.1	2.9	3.2	
4) 1-4 レベル								
5) 2-1 わかりやすさ	2.3	1.8	2.4	2.6	3.0	2.4	3.1	
6) 2-2 コミュニケーション	3.1	2.8	3.3	3.6	3.2	3.2	3.3	
7) 2-3 教員の意欲・熱意	3.1	2.8	3.3	3.4	3.3	3.3	3.3	
8) 2-4 視聴覚教材	2.5	1.8	2.7	2.9	3.0	2.5	3.1	
9) 2-5 教科書・プリント	2.5	1.9	2.7	2.8	3.1	2.3	3.2	
10) 3-1 シラバス	2.9	3.2	3.1	2.9	2.7	2.8	2.7	
11) 3-2 出席状況	3.4	3.7	3.6	3.3	3.4	3.4	3.5	
12) 3-3 学習態度	2.7	2.4	2.9	2.6	2.7	2.8	2.8	
13) 3-4 授業時間外学習	2.2	2.3	2.6	2.4	2.0	2.5	2.1	
14) 4-1 改善度	2.6	2.1	2.4	3.0	3.0	2.7	3.0	
15) 4-2 目的・目標達成度	2.8	2.3	3.2	3.0	3.0	2.7	3.0	
16) 4-3 満足度	2.8	2.3	2.8	2.9	3.1	2.6	3.1	
17) 5-1 語学力向上	3.1	2.7	3.3	3.3	3.1	2.9	3.0	
18) 5-2 演習・練習	3.1	2.8	3.2	3.5	3.2	2.9	3.1	

図６

〈Blackboard・Activemail 2006/7年度アンケート〉

このアンケートは無記名です。

電子教材の使用においては東大であればもっと性能のよいものがあるのですが，愛媛大学では選択が限られてくるため不便に感じることもあったと思います。ごくろうさまでした。
そこで，今後この経験を生かすために，以下のアンケートにご協力ください。

＊あてはまるものに○をつけてください。

【外国語以外の講義における電子教材の利用について】

1．CALL 教室で電子教材を利用したことはありますか。
よくある－他の講義でもまれにある－大学において利用したことがない

2．CALL 以外の教室で電子教材を利用したことはありますか。
大学において利用したことがない－他の講義でもまれにある－よくある

3．利用したことがある場合どこで使いますか。
① 大学内（メディアセンター・図書室）
② 大学内(クラブなどの部室・担当教員の研究室)
③ 大学外
④ 自宅以外のどこか(インターネットカフェなど)
⑤ 自宅
⑥ 携帯

4．他の講義で Blackboard あるいはそれ以外の(ような)ものを利用している講義はありますか。
その場合，その講義の担当教員はどの電子教材を使用していましたか（電子教材名)。

【本講義における Blackboard の利用について】

1．Blackboard の授業ファイル（Unterricht）をどのくらいの頻度で見ましたか。
毎日－週２回－週１回－２週間に１回－それ以下

2．それ以外のファイル（宿題などの項目）についてはどのくらいの頻度で見ましたか。
それ以下－２週間に１回－週１回－週２回－毎日

3．Blackboard の利用（使いやすさ（現在は見やすくするために使用部分を制限してあるのですが)）についてはどのくらい理解できましたか。
全く分からない－初めは使いにくいが後になると分かってきた－初めは考えることがあったが慣れていくと普通に利用できた－初めから使いにくいということはなかった－簡単な方だ－簡単すぎる－すぐに扱えた

4．Blackboard の利用は勉強に役立ちましたか。
① 復習について
大変役に立った－すこしは役に立った－あまり役立たなかった－全く役に立たなかった

② 新しい内容の予習として
全く役に立たなかった－あまり役立たなかった－すこしは役に立った－大変役に立った

③ 課題について
大変役に立った－すこしは役に立った－あまり役立たなかった－全く役に立たなかった

5．Blackboard に関連したことについて，担当教員や助手は手助けをしてくれましたか。
手助けが多すぎる－よく助けてくれた－まあまあ助けてくれた－あまり助けてくれなかった－全然たりない

6．来年以降の言語（外国語）講義に Blackboard の利用を勧めますか？
強く勧める－あった方がいい－無い方がいい－利用なし

7．あなたの e メールアドレスを，宿題提出など，授業で使用してもよいと思いますか？
愛媛大学からもらったアドレスだけ OK－自分の携帯なら OK－自分の e メールアドレス全て OK－使用したくない

8．あなたから Blackboard 利用に関してのヒントや希望などがあれば，自由に記入してください。

アンケートのまとめ

		回答者１２名 火曜３限	回答者４名 火曜４限	回答者９名 水曜２限	回答者２２名 水曜６限夜間主	回答者１９名 月曜２限	回答者１６名 金曜３限
外国語以外の							
	1 よくある		1	1	2	1	2
	まれにある	1	2	2	6	7	4
	ない	11	1	6	12	7	10
	2 よくある	6		2	4	1	3
	まれにある	4	2	3	6	5	5
	ない	1	2	4	9	6	8
	回答無			2			
	3 大学内メディア	11	3	7	15	11	11
	大学内クラブ		1		2	1	
	大学外	1			1	1	
	自宅以外のどこか			1	2	1	
	自宅	5	2	6	6	11	6
	携帯				1		2
	4 ブラックボード	3	3			2	3
	テキスト付属のＣＤ		1				
	情報科学（ＢＢ）			1	5		1
	英語Ｂ（ヤフー等）			2	1		
	アメリカ文学概論						1
	その他					1	
BB について							
	1 毎日						
	週２	1		3	4	3	2
	週１	5	1	3	7	8	8
	２週１	3	3	1	6	4	5
	それ以下	3		2	4	4	1
	2 毎日						
	週２	1		2	5	2	2
	週１	4	1	4	6	8	9
	２週１	2	1	1	5	3	4
	それ以下	5	2	2	6	6	1
	3 全くわからない	1		1	5	3	2
	後でわかってきた	10	3	5	11	12	4
	慣れて普通に	1		3	4	2	6
	初めから使いにくくない		1		1	1	3
	簡単なほう				1	1	1
	簡単すぎる						
	すぐに扱えた						
４①	大変役立った	1	1	4	8	4	1
	少し役立った	8	3	4	10	10	7
	あまり役立たない	3		1	4	4	6
	全く役立たない					1	2
４②	大変役立った	1	1		2		1
	少し役立った	1	3	2	9	11	7
	あまり役立たない	8		7	10	5	6
	全く役立たない	2			1	4	2
４③	大変役立った	2	4	4	8	5	4
	少し役立った	4		2	6	7	7
	あまり役立たない	6		2	7	5	5
	全く役立たない			1	1	2	
	5 手助けが多すぎる						
	よく助けてくれた		2	2	5	2	3
	まあまあ	4	2	4	12	6	7
	あまり	7		2	1	7	4
	全然足りない	1		1	4	2	2
	6 強く勧める			2	4		1
	あったほうがいい	5	2	4	9	9	11
	無いほうがいい	6	1	3	6	7	4
	利用なし	1			2	3	
	(どっちでもいい)		1				
	7 愛大ののみ	7	3	7	15	14	9
	携帯ならよい				1	1	2
	メール全部	4	1	2	3		3
	使用したくない	1			3	4	2
	8 Black Board利用に関してのヒントや希望	授業の日にちによってページを変えると見やすい ある程度は理解できたが、長文が出てきた時には理解に苦労、日本語も付けてくれるとありがたい。		１Ｐに全部書かずにリンクでつなぐようにしたら良い フォルダを作って見やすくして！ダーっと書いてるだけじゃ駄目。 見出しを見やすく。	日付順に色でライン分けすると見やすくなるのでは。 長期休暇中にＢＢが使用できない人がいることを考慮して欲しい。 字が詰まりすぎて見にくい３人。 宿題提出が面倒。	表示や表現の方法に工夫をしたらもっと見やすくなる 先生がBlack Boardに頼りすぎてよく分からないことが多い。 行とかをきちんとして欲しい。もっと分かりやすく。 Black Boardはない方がいい。 もっと見やすく、題目ごと、単元ごとにまとめたら見やすいと思う。	メールが届いてないといわれるとげんなりする。 日毎にファイルを分けるなどして見やすくして欲しかった。何度もアンケートに書いたのに反映されなかったので、やる気がないのかと思う。次にこういう機会があったら是非見やすさということを考えて欲しい。 新しいものを導入して欲しい。 かなり見にくい。もう少し見やすく。 更新時にメール等で知らせてもらえるとありがたい。授業内容を上に書き込んでもらいたい。

図７

など

回答については図７を見よ。

簡単にまとめると，当教員以外の外国語授業ではCALL 内⑴外⑵で電子教材経験がある受講生はまれか或いは無い場合が殆どである。利用場所⑶はメディア・センター及び自宅が際立って多い。その他の電子教材使用授業経験者は全体の３分の１しかない⑷。

BB に関して文書フォルダ内の授業録を内蔵するファイルへのアクセスは週１回または２週間に１回に集中する⑴。同フォルダ内の宿題などを内蔵するファイル⑵へのアクセスは週１回が一番多い。

BB 利用方法については，「後で分かってきた」⑶が一番多く，「慣れて普通になった」受講生も少なくない（２位）。

４．１　BB を復習に利用して「大変役立った」と，「あまり役立たない」は，それぞれ四分の一を占めた。それに対して，「少し役立った」という答えは殆ど半分を占める結果となった。

４．２　新しい内容の予習のためでも「あまり役立たない」は半数となったが，「少し役立つ」という答えも半数を占めた。

４．３　課題についてはばらつきがあるものの，大変，或いは「少し役立つ」は多かった。

メディア・リテラシーは，この講座の目的の一つであったため，受講生の自主性を重視し，困ったときにだけサポートをした。そのため，手助け⑸についてはばらつきがあり，「まあまあ手助けしてくれた」が，比較的多いようである。BB 使用の推薦の有無は40対27でわずかに受けが良いと考えてもいいだろう⑹。自由意見欄では更なる改良と見やすさなどが求められ，教員はそれらをこれからの発展のための重大なヒントに使う。

６．３　客観的な実際データから見ると

当教員は最後の授業に口頭試験と同時に，資料を見ないで書き放題をさせるよう行った。そのデータの詳細解釈は別の研究プロジェクトに使用するのでここでは簡単にまとめる。

・試験の際に，書き放題は前期・後期に渡り，教科書や資料を使わずに，文書をたくさん書けた（ドイツ語のみを使用し，平均２，３ページ）受講生が非常に多い。

・口頭試験ではその場で決めたパートナー（予測も具体的な準備も不可能）と３－４分，10秒以上もだまらずに第二外国語で話すことができた。

第一外国語でも短期間でこれ程長く話せる受講生は多くはないだろう。

口頭試験は研究のために録画した。このような試験を標準化するために現在分析中である。

最後になったが，このような授業を受けた受講生の多くが，松山で行われた外部試験であるドイツ語検定試験を合格した者のかなりの部分を占めている（データの詳細はプライバシー保護のため非公開とする）。

７．後　書　き

この文書では BB は少なくとも部分的にまたは補充的な他のメディアとつなげば外国語授業の程よい Outsourcing に使用し得ることが証明されただろう。しかし，改善の余地は十分にあり，その方向性は把握できている。BB 全体に関して，それを多く使用する，または頼りすぎると，受講生の中にはほったらかしにされているような感じを持つ危険性がある。BB の中の機能をどのぐらい使い，またはある機能でできるものをどのぐらい利用するか，或いは分かりやすさ，使いやすさなどの改良は，これからの課題である。

ここで紹介した試行は他の文科系の教員，まして言語系の教員はまだだれも行っていないため，教務の中で必ず要するというものではない。また，それ以外に，この授業における LMS の（外国語授業内の）使用法開発はこれまでに例が無いものである。もちろん特定の授業や理科系の授業には BB などは良く使われている。しかし，理科系，スポーツ系，文科系など，あらゆる性質を持った多様な学生で構成され，そのために非常に高い順応性を必要とする（第二）外国語の授業において，特定のテストやその準備以外に，日常的に授業で使用されるのは，初めてに近いことであろう。Brad Marshall（2007）（Nemla における）が紹介していた Harvard で独自開発された WebCT に似た LMS 使用のフランス語授業は，ここで紹介した授業と殆ど変わらず少人数であった。このような面で見れば最先端的な授業ではあったろうが，修正点も非常に多いだろう。

この授業のような BB などのメディアを使用する

のには，ただ外国語の学習だけではなく，学習時に使用するメディアに慣れることも重要である。このようなメディア・リテラシーは日常生活に浸透しているし，愛媛大学の学生を少なくとも外国語授業においては世界中の普通の大学レベルへと導いていくための機能も果たしているといっても良いようである。

しかし，大学側からのサポートは曖昧であったといって良いだろう。研究者がほぼ自費でこのような授業の Teaching Assistant も支援も認められず，これからもこのような開発に，同様にコスト，時間，労力，人材を準備が出来るかどうかは非常に微妙で，このままであれば，恐らくは期待することは困難であろう。

終わりに

この度，BB には新しい機能が付いた。それは，例えば，簡単な課題をネット上で解答し，それをある一定の条件でクリアした後，また別の，より難しい課題が出現するといった機能である。

この機能は自習のための段階的な側面を持っているため，そういう意味においては，期待ができると思われる。

BB の新バージョンでは各項目を見ることができるようになるなど，機能が増えた。したがって，マニュアルを変更する必要があると思われるが，まだ製作中である。

文　献

Active Mail〈https://webmail.cc.ehime-u.ac.jp/am_bin/am_main.cgi/login〉.

Blackboard〈https://bb7.lms.ehime-u.ac.jp/〉.

Hawthorne effect（n. d.）〈http://www.nwlink.com/～donclark/hrd/history/hawthorne.html〉

Kantowitz, B. H. et al.（1997）DEVELOPMENT OF HUMAN FACTORS GUIDELINES FOR ADVANCED TRAVELER INFORMATION SYSTEMS AND COMMERCIAL VEHICLE OPERATIONS ; EXPLORING DRIVER ACCEPTANCE OF IN-VEHICLE INFORMATION SYSTEMS. FHWA-RD-96-143. 〈http://www.fhwa.dot.gov/tfhrc/safety/pubs/96143/sec1/body_sec1_sec03.html〉.

Manual（製作中）Preparing BB for FD.

Marshall, B.（2007）“E-learning experience in Europe” 38th Northeast Modern Language Association Convention. Baltimore（March 2）, paper.

Meloni, C. /Gonglewski, M. /Bryant, J.（n. d.）Using E-mail in Foreign Language Teaching. The TESL Internet Journal. 〈http://iteslj.org/Techniques/Meloni-Email.html〉.

Meshon, R.（2001） A Comparison of Courseware. CAJ（Communication Association of Japan）Chugoku-Shikoku Newsletter 5, 9-13.

Purushotma, R.（2006） Commentary : You’re just… Language Learning & Technology 9（1）80-96, 〈http://llt.msu.edu/vol9num1/purushotma/default.html〉.

Reinelt（2006a）“Einleitung : Herausforderung und Chance-Krisenbewaeltigung im Fach Deutsch als Fremdsprache in Japan”, in Petra Balmus, Guido Oebel und Rudolf Reinelt : Daf-Westjapan, Ryukyu Universitaet, Okinawa, Japan 12-14. Dezember 2003 Munchen : Iudicium, 2005, p13-22.

Reinelt, R.（2006b）“Report on ‘Kulturkontakte der dritten Art’”, FL Teaching and Research Miniconference in Matsuyama 2006, Ehime University, September. 30. 2006.

Reinelt, R.（2006c） “CALL in poor 2FL learning environments” the Pacific Association for Computer Assisted Language Learning from East to Southeast Asia, Oceania, across to the Americas（PacCALL 2006）, in Nanjing, Nov. 18. 2006. 〈http://www.paccall.org/2006/paccall-prog.php〉.

Reinelt, R.（2007） Preparing Blackboard（TM） for foreign language teaching : speaking. In : Reinelt, R. Proceedings of the Communication Association of Japan Chugoku-Shikoku Chapter 9th Conference, Matsuyama : Rudolf Reinelt Research Laboratory, p. 9-32.

Spacing effect（n. d.）〈http://en.wikipedia.org/wiki/Spacing_effect〉

共通教育〈http://web.iec.ehime-u.ac.jp/〉